

# 足利風 -ashikaga-fu

2018  
10月号  
Vol. 58



書：風喜人

## 足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- \*特集！
- \*TOPICS
- \*私のボランティアことはじめ
- \*サークル紹介
- \*インフォメーション
- \*センターからのご案内

## \* 私たちの望むものは \*

私たちの望むものは 生きる苦しみではなく 私たちの望むものは 生きる喜びなのだ/ 私たちの望むものは 社会のための私ではなく 私たちの望むものは 私たちのための社会なのだ/ ..私たちの望むものは くりかえすことではなく 私たちの望むものは たえず変わってゆくことなのだ..

岡林信康というロック好きな牧師のせがれが、心ならずも“フォークの神様”となってしまった..そんな時代でもあった。

赤城おろしの前橋の地に生まれた故・高木仁三郎(原子力情報資料室代表)さんは、私どもが主催した足利でのネットワーキング全国研究集会の話を、栗原 彬(水俣フォーラム代表)さんと一緒に参加した花崎阜平さんに「あれって、何に？」と詳しく聞いたそう。関心があったのだ。その高木仁三郎さんが“市民科学者として生きる”きっかけとして宮沢賢治との出会いをあげている。～生物の共生や命の連鎖など、その後の私の自然観の根幹となることを賢治から学んだ。～賢治が羅須地人協会を始めたのは、花巻農学校の教師を辞任してからである。花巻郊外の桜という所に羅須地人協会を建て移り住み、自ら耕作をしながら農民に教え共に学ぼうとしたのである。



野に下り、「われわれはどんな方法でわれわれに必要な科学をわれわれのものにできるか」という言葉には、その決意を示す、はりつめたリズムがある。賢治はとにかく農民の中に入り、その眼の高さから、芸術を、科学を実践しようとした。“ヒデリノトキハナミダヲナガシ/サムサノナツハオロオロアルキ”のところから、つまり農民と感性を共有するところから始めるしかないと考えた。それ以外の在り方は、ありえないというのが賢治の決意だったろう..。

～そして高木仁三郎さんは最後まで一市民科学者として生きたのだった。

岡林信康の“山谷ブルース”は1968年だった。ちょうどその時に私は泪橋を超えて山谷のドヤ街でボランティア活動の日々だった。田舎モンの間知らずの青二才を心底鍛えてくれたのは山谷だった。そして..「友よ、夜明けは近い！」ということを感じさせてくれたのも..。

(M生)

## \* 茶論報告「古典への誘(いざな)い」\*

7月28日(土)午後1時～4時。足利市民活動センター3Fみんなの広場で、表記の茶論が、台風にもかかわらず両毛一円から集った多数の参加者で熱気あふれる中、開かれた。“方丈記”(鴨 長明)“歎異抄”(唯円)“徒然草”(吉田兼好)という三大古典・美文を、それぞれ田中佑雲・鈴木光尚・日下部悲天という文学・古典通の論客が、レジュメをもとに解説・コメント。格調高い質疑応答もあり、脱線もありの和やかな中にも、目から鱗の新発見も有りで、またたく間に時間が過ぎた。余韻がいつまでも続いた茶論となった。

## \* 共に生きる力～形見の声に支えられて～ \*

田中 佑雲



今春、新井奥邃(あらい・おうすい)の言葉を数点書作した。

深遠な神秘思想家でおよそ読み熟せぬ難解な文章に閉口、永く敬遠してきたが、的確な解説資料をS氏より戴き辛うじて落筆。同時代の田中正造や江渡狄嶺(えと・てきれい)らに慕われながらひっそりと静黙を愛し「慎独」の時間を守っていた日常が浮かび上がって、書展終了後も徳化の余韻を聞くようで不思議な感覚に包まれている。

日常は今も心許無く自分の心に幾重にも絆を結んで綱渡りするように明け暮れてはいるが、いつどこで振れて切れるのか不安は尽きない。有限の可滅的な存在である人間にとって、決して独りではない、いつも見守ってくれる守護神のような人がいるという確信は、生きるよすがになって勇気を与えられる。

もはや、再び逢えない方々であれば、恩返しならぬ「恩送り」することが供養とも考え、形見の声として心の中で、その方々の施して下さった言葉を反芻している。



かつて都内の書道館で「天涯比鄰の如し(真の友人は遠く離れていてもすぐ近くにいる感じがする)」のやはり明治期の書家・中林梧竹(なかばやし・ごちく)の扁額書を見たことがある。孤絶を尊び雲山万畳の奥までも書の道を極めてひとり楽しみ孤詣独往に生きたが、王羲之の書境追い続けながらも禅僧のような覚悟で重ねた旅先での書作、そこで巡り逢った有志と共に過ごし、その地の自然を友として漢詩を詠んだ心の風韻を偲ぶ。

たとえ同時代の敬慕する人物と直接に交われずとも遠くにあっても生きる励ましを得ることは可能である。形見のように慈光のようにその声を抱いて生きて行ければと願っている。

## \* 「足利・低山を楽しむ会」について \*

昨年秋に、足利市民活動センターで開催された ～ボランティア NPO なんでも相談室「楽しい秋の里山の歩き方」～講習会に出席された有志の方から周辺にある低山を歩きたい…是非リーダーとして、ご一緒をお願いしたい。今の健康を保持するためにも…という事で立ち上がりました。今年の5月にも「初夏の楽しい低山歩き」を開催した所、多くの方が趣旨にご賛同して加入されました。前回は、足利で一番高い山「仙人ヶ岳」(663m)に20人で全員楽しく登ってきました。

四季を通して、特に新緑が映える春の山、秋にはステキな紅葉が目には染みますね。山本有三さんの言った「一度しかない人生を楽しく生かさなかつたら生きてきた甲斐がない」じゃないですか？

(会長: 春山昌義・問合せ先: 090-8724-1335)

## ① インフォメーション ①

### ☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。  
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、  
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。  
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★10月13日(土) AM10:00～12:00

\* 本 : 絵本「ラヴ・ユー・フォーエバー」(ロバート・マンチ)

\* 案内人 : 中島 由貴子 さん

\* ひとこと : 私たちのだれもが、かつて赤ちゃんであり、そして大人になり親となる人もいます。自分が子どもだった頃を思い出しながら、命とともに受け継がれていく愛情のバトンについて、思いをめぐらせましょう。～母親の無条件の変わらない深い愛を象徴的に描いた絵本です。ぜひ一緒に！

★11月16日(金) PM2:00～4:00

\* 本 : 「ロマネ・コンティ・一九三五年」(開高 健)

\* 案内人 : 清水 弘一 さん

\* ひとこと : 長年の旅と飽くなき探求心がこの作家・開高 健にもたらした馥郁たる一滴、また一滴・・・それが珠玉の文体を生み出した。酒・食・釣魚などなどをテーマに、その豊饒から悲惨までをみごとに描いた作品を残した。「ベトナム戦記」などのルポルタージュから始まった作家魂が、この短編では、生きていることだけでも感動がある・・・と、ささやきかける。開高の精緻流麗な文体を、一緒に味わってみませんか。

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

### \* センターからのご案内 \*

#### ☆みんなの広場 ～ 10月・11月のご案内 ～

- |                |            |           |
|----------------|------------|-----------|
| * 印半纏の美展       | 10月 1日(月)～ | 11日(木)    |
| * 足利絵手紙の会作品展   | 10月15日(月)～ | 25日(木)    |
| * 川島直人水彩画展     | 10月29日(月)～ | 11月 8日(木) |
| * あべあやこイラスト原画展 | 11月12日(月)～ | 22日(木)    |

#### ☆相談室 & 講座のご案内

- \* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- \* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

#### \* 編集後記 \*

昨年、センターの軒先で巣作りをしていた鳥たちが、今年も子育てをしに帰ってきた。職員一同で見守っていたのだが、ある日忽然と巣が空っぽになってしまっていた。詳しくはわからないが、きっと・・・これも自然の摂理なのか。きびし～ (しおぱん)